

深浦町における歴史文化資源調査と その活用による津軽青森地域振興事業

原 克 昭¹

はじめに

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、2017年の調査開始から数えて4年目を迎えた。前年度に引き続き、2020年度も公益財団法人青森学術文化振興財団より地域の振興に係る研究事業（チャレンジ枠）の助成を受けて実施した。以下、本事業の活動を報告する。

1. 背景と目的

新たな観光資源の開拓が重要課題である青森県内には、貴重な宗教関係の古典籍・古文書・文献資料が数多く伝えられている。そのような文献資料群を、新たな文化資源として発掘・再発見し、さらに高付加価値化することが求められる。

弘前大学では、深浦町と連携協定を締結し、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス開講をはじめ、様々な領域分野で地域のニーズに応じた社会連携を実践してきている。うち、本事業では、津軽地域における歴史文化振興事業の一環として、深浦町の古刹・春光山円覚寺に所蔵される古典籍資料群の調査研究に着手し、さらに公益財団法人青森学術文化振興財団の理解と助成を得て、新たな津軽青森地域の歴史文化資源、ひいては青森県を代表する文化観光資源へと展開させることをめざしてきた。

その目的は、円覚寺資料調査への市民や学生の協働調査参加という「青森モデル」の推進、フォーラム開催・報告書の刊行・市民講座による研究成果の地域還元と情報共有など、青森県の歴史文化振興に文献資料調査という面から貢献することにある。あわせて、県外に向けては国内でも貴重な宗教史関係資料の存在を発信することに努めている。はたして、「青森モデル」による地域市民の調査参加や全国規模でのフォーラム開催は大きな反響を呼び、「歴史文化都市」としての「青森」に対するまなざしと関心度は徐々に高まりと拡がりを見せている。そのような過程にあって、調査研究したいも円覚寺資料を青森県の文化財指定として申請する段階にまで漕ぎつけたところである。

2. 実施内容

今般の新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢を受けて各種事業の延期や中止が余儀なくされる中、本事業においては地道な調査活動の継続とオンライン型フォーラムの開催を実施することができた。それも、ひとえに本事業に対する地域の理解とニーズに支えられたからにはほかならず、その需要に応えうるだけの事業的意義を再認識できたことは特筆すべきところである。本年度における具体的な実施内容

¹ 弘前大学人文社会科学部

は、以下の通りである。

(1) 深浦円覚寺所蔵古典籍資料の継続発展的調査の遂行

- ・ 8月の調査再開以降、およそ月一回のペースで深浦円覚寺に所蔵される古典籍資料群の悉皆調査を定期的に実施した。
- ・ 現在までに、約2000点に及ぶ膨大な資料群を悉皆調査し、中世聖教・歴代住職関係・津軽周縁の諸師関係・朝鮮本にわたる分類作業と書誌調査を推進した。
- ・ 青森県の文化財指定申請の準備として、指定対象の資料群につき書誌カードの採取、申請用目録の作成、写真撮影を同時並行的に進め、必要な申請手続きは完遂させた。
- ・ 上記の継続発展的調査に加えて、県文化財保護審議会委員による予備調査に立ち会い、調査協力と情報提供に従事した。



(2) 2020年度深浦古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（フォーラム）のオンライン開催（2020年11月1日）

- ・ 津軽青森地域が重要な宗教的拠点であり、深浦円覚寺の資料群が学術的重要性を有していることを情報発信するべく、例年、学内関係者による調査成果報告に加えて、各学域の第一人者を招聘し特別講演を実施している。
- ・ 2020年度は当初、末木文美士先生（東京大学名誉教授）を招聘し、弘前大学を会場としたフォーラムを企画していたが、今般の新型コロナウイルス感染状況に鑑み、Zoom仕様によるオンライン開催へと変更した。結果として、社会連携課ならびに人社総務Gの全面的な協力を得て、弘前・深浦・東京をオンラインでつなぐ“もうひとつの地域連携発信型”を提唱・実践する機会となった。
- ・ オンライン開催にあわせて、学内および深浦町役場内にパブリックビューイング会場を設定して告知した。あいにく当時の社会状況と感染防止対策の観点から、パブリックビューイング会場については中止とせざるを得なくなったが、あらかじめ事前にチラシ（添付資料）に明記しておいたことから、社会連携事業としての危機管理の点においても支障をきたすことなく円滑に開催することができた。
- ・ 会場でのフォーラム開催は実施できなかったが、それを惜しむ声は各所より頂戴した。かたや、オンライン開催に切替えたことで、リモート視聴参加が可能となったという声もいただいている。今後の新たな地域連携発信型を再構築するための参考としてゆく。



(3) 報告書の刊行準備

本事業にかかる調査研究の成果や協働調査の経緯と現況、フォーラム開催内容を取りまとめた報告書は、各号ごとに約400部程度を発行し、様々な形で反響をいただいている。2020年度も、引き続き『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第三集として刊行・頒布し、調査によって得られた情報を地域住民に活用してもらえようとする。また、全国規模での学術研究に資するべく、全国の資料調査関連の研究機関ならびに研究者に提供する予定である。

3. おわりに

例年とは異なる未曾有の社会情勢の渦中であって、研究調査の継続展開、オンラインによるフォーラム開催、県文化財指定の申請準備、そして報告書第三集の刊行にまで漕ぎ着けることができた。これは、持続可能な地域社会への貢献活動の一環として、本事業の有する底力が再認識されたところでもある。

なお、本プロジェクト事業の立ち上げから携わっている渡辺麻里子氏（現・大正大学教授）の転出異動に伴い、今後は外部研究者として参加協力を仰ぐことで、引き続き地域に密着した調査活動の持続と全国規模での学術的発展という双方向的な展開が期待される。従前の研究調査成果と資料的意義を集大成するとともに、県文化財指定申請の審議結果を受けて、津軽青森地域における歴史文化資源の存在を広くアピールすることによって、より一層の地域連携と全国への情報発信に努めてゆく所存である。

〈参考文献〉

『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第三集、2021年2月、弘前大学深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト（1-194頁）。

ZOOMによるWeb開催

2020年

(事前予約制)

11月1日 日

13:00~15:50

パブリックビューイング会場 (青森県弘前市文京町1番地)

弘前大学人文社会科学部4階 多目的ホール

事前予約制・定員40名(先着順)・青森県内在住者対象

本プロジェクトによる深浦円覚寺の古典籍保存調査活動を通して、津軽地域一門の仏教文化圏が徐々にあぶりだされてきました。第3回目となる本フォーラムでは、幕末から明治期にかけての激動の時代にみる宗教文化の近代化と津軽仏教圏の展開というエポックに焦点をあててみます。調査報告とあわせて、特別講演として日本思想史研究をリードする末木文美士先生に、近代化する明治期の仏教圏とそれをとりまく近代知識人たちの文化環境についてお話しいただきます。Web開催により弘前大学・深浦町・東京をオンラインでつなぐ“もうひとつの地域連携発信型”の新たな試みに、みなさんも参加してみませんか。



特別講演

明治の仏教

—真言宗を中心として—

東京大学名誉教授
国際日本文化研究センター名誉教授
すえき ふみひこ

末木 文美士 先生

1949年生、山梨県出身。東京大学博士(文学)。東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授、総合研究大学院大学(総研大)名誉教授。

ご専門は、仏教学および日本思想史・宗教史。中世仏教を中心に、近現代の仏教思想まで広く論じる。御著書が多数あり、主なものとして『日本仏教思想史論考』(大蔵出版、1993年)、『平安初期仏教思想の研究』(春秋社、1995年)、『思想としての近代仏教』(中公選書、2017年)などがある。今回のご講演では、明治の仏教界について、真言宗を中心に幅広くご解説いただきます。

主催 深浦町 弘前大学 深浦町教育委員会
弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

後援 弘前市 東奥日報社 陸奥新報社

公益財団法人青森学術文化振興財団の助成を受けています

※深浦町会場については、深浦町よりご案内があります。

※社会状況によっては会場での公開視聴は中止する場合があります。

問い合わせ

弘前大学人文・地域研究科総務G 担当:外崎
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
電話:0172-39-3192 Eメール:jm3192@hirosaki-u.ac.jp

幕末・明治期における
津軽寺院と宗教文化の展開
— 深浦円覚寺の古典籍からみえる近代 —

2020年度 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会
弘前大学深浦エコサテライトキャンパス 令和2年度特別公開講座

Ⅲ.1

深浦町における歴史文化資源調査と
その活用による津軽青森地域振興事業

プログラム

【※】は東京(大正大学)より配信いたします。

- 13:00 開会の辞 深浦町長 吉田 満
- 13:05 ご挨拶 円覚寺副住職 海浦 誠観
- 13:10～13:30 報告1 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトの意義と現況
大正大学 教授・前 弘前大学人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子【※】
- 13:30～14:00 報告2 中近世と近代をつなぐ宗教資料と知の位相
弘前大学人文社会科学部 准教授 原 克昭
- 14:00～14:30 報告3 海浦義観と津軽の近代
(休憩10分) 弘前大学人文社会科学部 准教授 尾崎 名津子
- 14:40～15:45 【特別講演】 明治の仏教 一真言宗を中心として一
東京大学 名誉教授・国際日本文化研究センター 名誉教授
末木 文美士 先生【※】
- 15:45 閉会の辞 弘前大学 理事(社会連携担当)・弘前大学 深浦エコサテライトキャンパス所長
石川 隆洋
- 15:50 閉会

報告者紹介

大正大学文学部 教授
前 弘前大学人文社会科学部 教授

渡辺 麻里子

博士(文学)。専門は、日本中世文学(仏教文学・説話文学)、文献資料学。主な業績に、「中世文学研究における寺院資料調査の可能性」(『中世文学』56、2011年)、「天台談義所をめぐる学問の交流」(『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年)、「天台仏教と古典文学」(『天台学探尋』法蔵館、2014年)など。

弘前大学人文社会科学部 准教授

原 克昭

博士(文学)。専門は日本思想史・宗教文化史。主な業績に、著書『中世日本紀論考一註釈の思想史』(法蔵館、2012年)、編著『宗教文芸の言説と環境』(シリーズ日本文学の展望を拓く3、笠間書院、2017年)、共編著『習合神道』(続神道大系・論説編、(財)神道大系編集会、2006年)など。

弘前大学人文社会科学部 准教授

尾崎 名津子

博士(文学)。専門は日本近現代文学。主な業績に、著書『織田作之助論 大阪』表象という戦略』(和泉書院、2016年)、編著『織田作之助女性小説セレクション 怖るべき女』(春陽堂書店、2019年)、共編著『「言論統制」の近代を問いなおす一検閲が文学と出版にもたらしたもの』(花鳥社、2019年)など。

参加申し込み方法(事前予約制) 参加をご希望の方は、Eメール・お電話でお申し込みください。

■ZoomアプリによるWeb視聴参加

【申込期限:10月23日(金)まで】

Eメールよりお申し込みください。
お申し込みいただいたメールアドレスに、Zoom視聴用URLをお知らせいたします。各自Zoomアプリ(無料)をダウンロードしてください。
参加者のみなさまはカメラオフで参加可能です。なお、開催数日前になってもお知らせメールが届かない場合はご連絡ください。

■問い合わせ

弘前大学人文・地域研究科総務G 担当:外崎
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
電話:0172-39-3192 Eメール:jm3192@hirosaki-u.ac.jp

■弘前大学パブリックビューイング会場での公開視聴参加

(人文社会科学部4階・多目的ホール・定員40名・先着順)

【申込期限:10月23日(金)まで】

電話・Eメールよりお申し込みください。
青森県内在住者に限らせていただきます。
感染拡大防止のため、会場での御参加の際は必ずマスクの着用をお願いします(会場にマスクの用意はございませんので、各自ご準備をお願いします)。また、当日体調の優れない方は、ご無理をなされないようにお願いします。
※深浦町パブリックビューイング会場につきましては、別途に深浦町よりご案内があります。